

ハイパーサーミア治療室開設後 2 年半となる当院の現況・診療実績について

J R 広島病院 外科 小野 栄治, 矢野 将嗣, 吉田 誠
大城 望史, 福田 敏勝, 岡本有三

2016 年 1 月末にハイパーサーミア治療室を立ち上げ治療開始し 2018 年 6 月までに 214 例の様々な症例を経験した。その現況と診療実績について報告する。年齢分布は 50 代から 70 代を中心に 10 代から 90 代まで幅広く、原疾患は、頭頸部、肺、乳腺、消化器、婦人科系、泌尿器科系のガンや骨肉腫など様々で、最も多かったのは結腸直腸ガンの 45 例、次いで膵ガンの 35 例であった。治療成績の評価は、治療回数 4 回以上で予後評価可能であった例を対象とした。3 ヶ月の評価は 133 例, CR2 例(1%),PR17 例(13%),SD62 例(49%),PD49 例(37%), 6 ヶ月評価は 108 例, CR4 例(1%),PR10 例 (13%) ,SD43 例(49%),PD (死亡 17 例を含む) 53 例 (49%), 1 年評価は 79 例, CR3 例(4%),PR6 例 (8%) ,SD22 例(28%),PD (死亡 31 例を含む) 48 例 (60%) であった。そのうち、昨年 7 月から一部の患者で治療時間を 40 分から 50 分に延長しているが、それらの患者での予後評価を同様に行った結果、3 ヶ月の評価は 15 例, PR 5 例 (33%) ,SD 8 例(53%),PD 2 例 (13%), 6 ヶ月評価は 15 例,PR 2 例 (53%),PD 5 例 (33%), 1 年評価は 9 例, PR1 例 (11%) ,SD4 例(44%),PD4 例 (44%), 全 15 例中に CR 例は無かったが、死亡例も無かった。50 分治療の症例数はまだ少数ではあるが、明らかに治療成績の向上が認められた。また、CR 症例として、鼻翼のメルケル細胞ガン、肺ガン、食道ガン、膵癌多発肝転移の 4 例を紹介する。まだまだ、様々な課題を残しているが、治療成績向上への工夫を要する状況である。